

201222035A

厚生労働科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

内臓脂肪蓄積を簡便に推定できる 評価モデル式の開発とそのリスク評価に 関する縦断研究

(H23 -循環器等 (生習) - 一般-006)

平成24年度 総括研究報告書

研究代表者

松下 由実 国立国際医療研究センター 臨床研究支援部

分担研究者

中川 徹 日立製作所 日立健康管理センタ

山本 修一郎 日立製作所 日立健康管理センタ

溝上 哲也 国立国際医療研究センター 国際保健医療研究部

野田 光彦 国立国際医療研究センター病院 糖尿病・代謝症候群診療部

高橋 義彦 岩手医科大学 糖尿病・代謝内科学分野

西 信雄 国立健康・栄養研究所 国際産学連携センター

大庭 志野 国立保健医療科学院 研究情報センター

平成 25 (2013) 年 3 月

目 次

I. 総括研究報告

内臓脂肪蓄積を簡便に推定できる評価モデル式の開発と
そのリスク評価に関する縦断研究 ----- 1

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 7

III. 研究成果の刊行物・別刷 ----- 9

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)

総括研究報告書

内臓脂肪蓄積を簡便に推定できる評価モデル式の開発と
そのリスク評価に関する縦断研究(H23-循環器等 (生習) 一般-006)

研究代表者 松下 由実

国立国際医療研究センター 臨床研究支援部 臨床研究推進室長

研究要旨

日本のメタボリックシンドローム診断基準の内臓脂肪蓄積の簡易指標として、ウエスト周囲径が使われているが、研究代表者らは、CT測定による内臓脂肪面積に比べ、ウエスト周囲径はメタボリックシンドロームのリスク重複を女性では5割、男性では7割しか検出することができず、ウエスト周囲径を簡易指標として用いることには限界があることを明かにした。しかし、CTによる内臓脂肪面積測定はX線の被曝の問題、さらには高コストの面などの問題点があり、健診現場での汎用性に欠ける面もある。そこで、内臓脂肪の簡易指標として効果的、効率的、経済的かつ簡便な評価モデル式の検討を研究代表者らはこれまで横断研究で行ってきたが、縦断研究では検討しておらず、さらに、アディポサイトカインなどの要因も評価モデル式に入れる必要があるかどうかの検討も必要である。

そこで、研究代表者らが今開発中である内臓脂肪の蓄積をより鋭敏に反映する効果的、効率的、経済的で簡便に測れる評価モデル式を身体計測値、バイオマーカー、生活習慣要因からさらに検討し、推定能力の高いものに改訂し、また、その式が循環器疾患リスクを予測できるかどうかについて追跡調査により明らかにすることを目的として本研究を行った。

本研究のコホートでは、CTによる内臓脂肪の計測データ(延べCT画像枚数93,500枚)に加え、生活習慣病に関する詳細な検査データなどを多数蓄積し、かつそれらを経時的に観察できる集団を対象としている。このような検討は世界的にも類がなく、本研究から科学的エビデンスに基づく質の高い内臓肥満を反映する評価モデル式の作成が可能である。このことにより、強化型保健指導が必要な対象者の絞込みに役立ち、保健資源の効率的な運用を可能とする。また、特定保健指導評価としても我々が作成する評価モデル式は適応可能である。以上を通じて、メタボリックシンドロームに関連した諸疾病群の発症リスクを低減し、国民の健康寿命の延伸に貢献できる。

分担研究者

中川徹

日立製作所 日立健康管理センター
医長

山本修一郎

日立製作所 日立健康管理センター
医長

溝上哲也

国立国際医療研究センター
疫学予防研究部長

野田光彦

国立国際医療研究センター病院
糖尿病・代謝症候群診療部長

高橋義彦

岩手医科大学
糖尿病・代謝内科学分野 特任講師

西信雄

国立健康・栄養研究所
国際産学連携センター センター長

大庭志野

国立保健医療科学院
生涯健康研究部
特命上席主任研究官

A. 研究目的

研究代表者らが今開発中である内臓脂肪の蓄積をより鋭敏に反映する効果的、効率的、経済的で簡便に測れる評価モデル式を身体計測値、バイオマーカー、生活習慣要因からさらに検討し、推定能力の高いものに改訂する。また、その式が循環器疾患リスクを予測できるかどうかについて追跡調査により明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

対象

日立製作所日立健康管理センターで通年行っている人間ドック成績のうち、腹部CT検査が導入された平成16年度以降を分析対象とする。さらに、平成20年度以降の受診者には同意を得た上で研究用の追加採血を行った。本研究は同社の産業医との共同研究として進めることで合意しており、倫理審査で承認済みである。

同センター人間ドックでは、中性脂肪、HDL コレステロール、血圧、空腹時血糖、腹囲といったメタボリックシンドローム診断に必要な項目に加え、インスリンや高感度CRPを受診者全員に測定している。腹部CTによる内臓脂肪面積の計測は希望者に行っているが、人間ドック受診者17,000人の約3分の1にあたる6,000人が毎年、腹部CTを受診している。平成16年から平成25年度までのCT受診者（少なくとも1回以上の検査）は約2万人で、延べ画像枚数は93,500枚と見積っている。なお、人間ドック受診者における男女比は6:1である。心電図、CAVI検査も測定している。

方法：

1.採血およびアディポサイトカインの測定（同意書の得られた人のみ）

人間ドック受付時に研究用採血についての説明・依頼文書と同意書を渡し、書面で同意を得た。同意の得られた人から静脈血5mlを採取し、同施設にて7343名のアディポネクチンを測定した。残検体は健診施設内の冷凍庫（-80℃）に一時保管し、3ヶ月ごとに国立国際医療研究センターへ低温で輸送し、凍結保管（-80℃）した。

2. 介入研究

はらすまダイエット介入には、811 名がエントリーし、アディポネクチンを測定し、介入を行っている。

3. 既存データ（平成16年度～平成24年度）のデータベース化

- 1) 人間ドックデータ（腹部 CT、肺部 CT を含む）をデータベース化した。
- 2) 各疾病の ICD-10 コード化を行った。
- 3) 心電図データのミネソタコード化を行った。
- 4) 糖尿病・高血圧・高脂血症・脳心血管疾患発症の把握
糖尿病、高血圧、高脂血症、脳心血管疾患の発症、既往歴、治療の有無は人間ドック成績、調査票および欠勤時の診断書より把握した。
- 5) 追跡体制を確立した。

4. データの解析

内臓脂肪の蓄積をより鋭敏に反映する効果的、効率的、経済的で簡便に測れる評価モデル式を身体計測値、バイオマーカー、生活習慣要因から再検討し、妥当性の検討を横断解析で行った。さらに特定保健指導実施前後の内臓脂肪面積の変化を評価モデル式による推計した数値の変化が反映できるかどうかを検討した。

（倫理面への配慮）

本研究の実施計画は「疫学研究に関する倫理指針」に則って作成し、研究実施前に、研究代表者及び実施する会社の分担研究者は研究計画書をそれぞれが所属する機関の倫理委員会に諮り、承認を得ている。通常に行われている健診データに使用にあたっては、個別にインフォームドコンセントをとらず、社内の掲示にて研究の目的と意義を説明した。また研究用採血に関して、調査内容をわかりや

すく示したパンフレットを用いて、自由意志に基づく参加であることや、個人情報保護の保護対策を含め人間ドックスタッフが対象者に説明した後に、本人から署名入りの同意書を得た上で実施した。人間ドック検査成績と採取した血液は匿名化（連結可能）した上で、鍵のかかるロッカー、 -80°C の冷凍庫にそれぞれ保管した。結果の公表に際しては個人が特定できない形式で行う。

C. 研究結果

1) 体格指数の変化がメタボリックシンドロームの各要因の変化に及ぼす影響

肥満指数のゴールドスタンダードは内臓脂肪面積とされている。複数回 CT で測定した内臓脂肪面積と他の体格指数の変化がメタボリックシンドロームの各要因の変化に及ぼす影響について検討を行った。

2004 年度と 2007 年度の 2 回、健診で腹部 CT 検査を受診した男性 1,106 名を対象とした。内臓脂肪面積、皮下脂肪面積、ウエスト周囲径は CT により測定した。3 年間の各体格指数の変化と各メタボリックシンドローム要因の変化を相関解析、重回帰分析により解析した。

体重、皮下脂肪面積、ウエスト周囲径の変化の相関は強く、体重変化と内臓脂肪面積の変化の相関は弱かった。内臓脂肪面積の変化は特に中性脂肪、HDL コレステロールの変化と強く関連しており、体重、ウエスト周囲径の変化とは独立に関係していた。

内臓脂肪面積が増加しないような生活習慣が大切であることを明らかにした。

(DiabetesCare2012;35(5):1139-43.
日本肥満学会、京都 2012年発表)

2) 内臓脂肪面積の変化がメタボリックシンドロームの各要因の発症に及ぼす影響

2004年度、2007年度の腹部CT受診者のうち、高血圧、高脂血症、糖尿病の現在治療中の人を除外した男性1,106人を対象とした。3年間の内臓脂肪面積の変化量により7群に分け、 $\pm 10 \text{ cm}^2$ 以内の群を基準とした。①中性脂肪高値②HDLコレステロール低値③血圧高値④糖代謝異常、および⑤メタボリックシンドローム（①-④のうち2項目以上あり）の3年後の発症オッズ比を求めた。⑤のオッズ比は 50 cm^2 以上内臓脂肪面積が増加した人で有意な上昇がみられた。②、④でも同様の結果が得られた。①は -50 cm^2 以下の群でオッズ比が有意に下がり、 30 cm^2 以上の群で有意に上昇していた。内臓脂肪の増加を抑制することがメタボリックシンドロームの解消につながる可能性が示唆された。(Obesity in press)

3) アディポネクチン・内臓脂肪面積がメタボリックシンドロームのリスク重積に及ぼす影響

男性6,221名、女性775名、合計6,996名を対象とし、アディポネクチン、内臓脂肪面積別にそれぞれ4分位、16群に群分けし、アディポネクチン最高値・内臓脂肪面積最低値群を基準(1.0)とした時のメタボリックシンドロームのリスク重積の調整オッズ比を求めた。アディポネクチン最低

値・内臓脂肪面積最高値群が最も高いオッズ比(95%信頼区間)であった(男性:12.7(9.7-16.6)、女性:13.5(6.0-30.2))。さらに、内臓脂肪面積とアディポネクチンは、独立してメタボリックシンドロームに影響を及ぼしていることが明らかになった。(Obesity in press)

D. 考察

縦断解析により、内臓脂肪蓄積が多いほど、メタボリックシンドロームのリスクが高まることが明らかになった。また、ウエスト周囲径の変化は、内臓脂肪面積の変化を正確には反映しておらず、内臓脂肪面積の変化も時系列で見ていくことは必要であることが明らかになった。縦断解析では、内臓脂肪面積の3年間の増加を 50 cm^2 未満に抑制することにより、メタボリックシンドロームのリスク重積の解消につながる可能性が示唆された。また、脂肪細胞から放出されるホルモン(アディポネクチン)は、内臓脂肪面積とは独立してメタボリックシンドロームに影響を及ぼしていることが明らかとなり、それも考慮した簡便なモデル式の開発が必要であることが示唆された。

E. 結論

得られたデータは、前向きコホート研究による発症率調査及び糖尿病・メタボリックシンドロームの曝露要因としての役割の検討の際、基礎データとして活用する。

今後は現在、研究代表者らが開発中である内臓脂肪の蓄積をより鋭敏に反映する効果的、経済的で簡便に測れる評価モデル式を身体計測値とバイオマーカー、生活習慣要因からさらに検討し、推定能力の高いものに改訂する。さらに、その式が循環器疾患リスクを予測できるかど

うかについて 10 年間の追跡を行い、妥当性を検討する。エンドポイントは、高血圧、糖尿病、高脂血症、メタボリックシンドローム、心電図異常、心臓足首血管指数 (CAVI)、さらに症例数が解析可能な数に達し時点で脳心血管イベントとする。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

論文発表

- 1) Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, T Kato, T Ouchi, N Kikuchi, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue, M Noda. Adiponectin and visceral fat associate with cardiovascular risk factors. *Obesity* (in press).
- 2) Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue, M Noda. Effect of longitudinal changes in visceral fat area on incidence of metabolic risk factors: the Hitachi Health Study. *Obesity* (in press).
- 3) Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue, M Noda. Visceral fat area cutoff for the detection of multiple risk factors of metabolic syndrome in Japanese: the Hitachi Health Study. *Obesity*. 2012;20: 1744-1749.
- 4) Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, M Noda, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue. Effect of

longitudinal changes in visceral fat area and other anthropometric indices to the changes in metabolic risk factors in Japanese men. *Diabetes Care*. 35:1139-1143, 2012.

- 5) S Yi, T Nakagawa, S Yamamoto, T Mizoue, Y Takahashi, M Noda, Y Matsushita. Short sleep duration in association with CT-scanned abdominal fat areas: the Hitachi Health Study. *Int J Obes*. 2012; 37: 129-134.

学会発表

国際学会

- 1) Visceral Fat Area Cutoff for the Detection of Multiple Risk Factors of Metabolic Syndrome in Japanese: The Hitachi Health Study. Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue, M Noda (International Congress of Dietetics Sydney 2012)

国内学会

- 1) インターネットを介した減量支援の実施状況
中川徹, 起由美, 色川正貴, 松下由実
(日本糖尿病学会、神奈川 2012年)
- 2) はらすまダイエットプログラム参加者の心理的変化の検討
大川未央, 中川徹, 久保田純, 松下由実
(日本糖尿病学会、神奈川 2012年)

- 3) 体格指数の変化がメタボリックシンドロームの各要因の変化に及ぼす影

響；日立健康研究。

松下由実、中川徹、山本修一郎、高橋
義彦、横山徹爾、野田光彦

(日本肥満学会、京都 2012年)

- 4) 血中アディポネクチン値及び空腹時
インスリン値を利用した、糖尿病発症
予測 日立健康研究から
山本修一郎、松下由実、中川徹、林剛
司、溝上哲也
(日本肥満学会、京都 2012年)

- 5) 肺気腫に対するアディポネクチンの
防御作用
中田博文、松下由実、草野涼、山本修
一郎、中川徹、林剛司
(日本肥満学会、京都 2012年)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1) 特許取得

なし

2) 実用新案登録

なし

3) その他

なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
松下由実	アメリカ登録栄養士試験出題基準	田中平三 中村丁次	栄養学概論 ～栄養のプロへの第一歩として～	同文書院	東京	2013	135-137
松下由実	健康日本21(第2次)	田中平三	これからの公衆衛生学 社会・環境と健康	南江堂	東京	2013	98-103

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, T Kato, T Ouchi, N Kikuchi, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue, M Noda	Adiponectin and visceral fat associate with cardiovascular risk factors.	Obesity			In press
Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue, M Noda.	Effect of longitudinal changes in visceral fat area on incidence of metabolic risk factors: the Hitachi Health Study.	Obesity	-	-	In press
Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue and M Noda.	Visceral fat area cutoff for the detection of multiple risk factors of metabolic syndrome in Japanese: The Hitachi Health Study.	Obesity	20	1744-1749	2012

Y Matsushita, T Nakagawa, S Yamamoto, M Noda, Y Takahashi, T Yokoyama, T Mizoue.	Effect of longitudinal changes in visceral fat area and other anthropometric indices to the changes in metabolic risk factors in Japanese men.	Diabetes Care	35	1139-1143	2012
S Yi, T Nakagawa, S Yamamoto, T Mizoue, Y Takahashi, M Noda, Y Matsushita.	Short sleep duration in association with CT-scanned abdominal fat areas: The Hitachi Health Study.	Obesity	37	129-134.	2013
松下由実	糖尿病の予防・管理・治療 糖尿病非薬物療法 食事療法 糖尿病治療における食事療法の疫学研究	日本臨床.	70 (増刊3)	750-753	2012

Visceral Fat Area Cutoff for the Detection of Multiple Risk Factors of Metabolic Syndrome in Japanese: The Hitachi Health Study

Matsushita Yumi¹, Nakagawa Toru², Yamamoto Shuichiro², Takahashi Yoshihiko³, Yokoyama Tetsuji⁴, Mizoue Tetsuya⁵ and Noda Mitsuhiko³

The relationships between metabolic risk factors and abdominal fat distribution determined using computed tomography (CT) are poorly defined in large populations. We investigated the cutoff values of the visceral fat area (VFA) to detect subjects with multiple risk factors of metabolic syndrome (MS) by sex and age groups, and attempted to examine whether sex- and age-specific cutoff values are needed. The subjects of this study were 11,561 Japanese men and women who participated in the Hitachi Health Study, received CT examination, and answered questionnaires on lifestyles between 2004 and 2009. VFA and waist circumference were measured using CT. The VFA cutoff values yielding an 80% sensitivity for the detection of multiple risk factors of MS were typically smaller among men under the age of 40 years (<40 years vs. ≥40 years; 86.4 cm² vs. 103.9 cm²). The area under the receiver operator characteristic curve of VFA for the detection tended to decrease according to age ($P = 0.056$ and $P = 0.020$ for trends in men and women). Age- and sex-specific cutoff values are needed. The sensitivity of the subjects under the age of 40 years is relatively smaller (70.0% for men and 60.0% for women) compare to other age groups when the same cutoff value is used regardless of age (e.g., cutoff value calculated to correspond to 80% sensitivity for subjects of all ages). Therefore, a smaller VFA cutoff point should be used among men under the age of 40 years.

Obesity (2012) 20, 1744–1749. doi:10.1038/oby.2011.285

The prevalence of metabolic syndrome (MS), which is comprised of a cluster of factors such as obesity, high blood pressure, impaired lipid metabolism, and hyperglycemia, has been growing globally. Individuals with MS have a higher risk of cardiovascular disease and a subsequent increase in disease mortality or morbidity (1–3). For the detection of MS, waist circumference (WC) is almost always used as one criterion, and this measure is typically used as a simplified measure of the visceral fat area (VFA (4–7)). Fat tissue is regarded as an endocrine organ, secreting adipocytokines, and other vasoactive substances that can influence the risk of developing traits of MS (8). In a previous study, we analyzed the epidemiological impact of VFA, compared with that of the subcutaneous fat area, WC, and BMI, against the clustering of metabolic risk factors and its components and demonstrated a superior performance of VFA for predicting the clustering of metabolic risk factors compared with other anthropometric indexes (9). Despite it is reported that the anthropometric values are changed by age (10), we had a

limitation that the sample size was not enough to analyze by age groups in the previous study.

In this study, we extended the surveillance period and increased the study subjects ($n = 11,561$; which was approximately double in our previous study (9)). We investigated the cutoff values of the VFA to detect subjects with multiple risk factors of MS by sex and age groups, and attempted to examine whether sex- and age-specific cutoff values are needed for a Japanese population.

METHODS AND PROCEDURES

The employees of a company in Ibaraki Prefecture and their spouses underwent health examinations between 2004 and 2009; all the health examinations were performed after more than 12 h of fasting. Of these participants, we analyzed the data for 11,561 Japanese subjects (9,867 men and 1,694 women) between the ages of 20–76 years who had undergone a computed tomography (CT) examination, answered a questionnaire on lifestyle and health, and did not have a current treatment of serious illness (cancer, cerebrovascular disease, myocardial infarction). The VFA and WC were measured using a CT scanner and calculated using the PC software application (fatPointer; Hitachi Medico, Tokyo,

¹Department of Clinical Research Coordination, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan; ²Hitachi Health Care Center, Hitachi Ltd., Ibaraki, Japan; ³Department of Diabetes and Metabolic Medicine and Diabetes Research Center, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan; ⁴Department of Health Promotion, National Institute of Public Health, Saitama, Japan; ⁵Department of Epidemiology and Prevention, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan. Correspondence: Yumi Matsushita (ymatsushita@ri.ncgm.go.jp)

Received 22 December 2010; accepted 15 August 2011; advance online publication 13 October 2011. doi:10.1038/oby.2011.285

Table 1 Areas under the curve of ROC for detecting multiple risk factors of metabolic syndrome

	Age	Anthropometric indexes		Presence/absence for the metabolic risk factors		Corresponding to 80% sensitivity	Specificity corresponding to 80% sensitivity (%)	Corresponding to maximal sensitivity plus specificity	Sensitivity (%)	Specificity (%)	L _{pos}		L _{neg}		
		Mean	(s.d.)	n	Area under the curve						s.e.	Corresponding to 80% sensitivity	Corresponding to maximal sensitivity plus specificity	Corresponding to 80% sensitivity	Corresponding to maximal sensitivity plus specificity
Men															
VFA	under 40 years	100.7 cm ²	(49.0)	366/994	0.741	(0.015)	86.4 cm ²	49.2	114.0 cm ²	64.2	72.9	1.58	2.37	0.41	0.49
	40s	118.7 cm ²	(51.8)	1,041/1,727	0.722	(0.010)	103.6 cm ²	52.6	106.6 cm ²	78.2	55.4	1.69	1.75	0.38	0.39
	50s	125.6 cm ²	(53.9)	1,429/1,897	0.697	(0.009)	104.5 cm ²	47.3	124.8 cm ²	67.6	62.6	1.52	1.81	0.42	0.52
	60s	127.2 cm ²	(57.0)	858/1,029	0.678	(0.012)	102.1 cm ²	44.2	120.4 cm ²	68.4	57.6	1.44	1.61	0.45	0.55
	70s	128.7 cm ²	(57.4)	242/284	0.706	(0.022)	109.4 cm ²	50.4	104.8 cm ²	83.1	49.3	1.61	1.64	0.39	0.34
	all ages	120.7 cm ²	(54.2)	3,936/5,931	0.712	(0.005)	102.4 cm ²	50.2	115.6 cm ²	72.1	59.8	1.61	1.79	0.40	0.47
	over 40 years	123.9 cm ²	(54.3)	3,570/4,937	0.702	(0.006)	103.9 cm ²	48.8	121.1 cm ²	68.9	61.3	1.56	1.78	0.41	0.51
WC	Under 40 years	85.9 cm	(10.0)	366/994	0.729	(0.015)	83.4 cm	51.9	85.6 cm	72.1	62.0	1.66	1.90	0.39	0.45
	40s	87.0 cm	(9.2)	1,041/1,727	0.701	(0.010)	83.8 cm	47.1	87.6 cm	64.2	65.0	1.52	1.83	0.42	0.55
	50s	86.4 cm	(8.4)	1,429/1,897	0.680	(0.009)	83.1 cm	43.4	85.5 cm	68.7	58.1	1.42	1.64	0.46	0.54
	60s	85.0 cm	(8.2)	858/1,029	0.666	(0.012)	81.8 cm	43.9	83.2 cm	74.0	52.1	1.43	1.54	0.45	0.50
	70s	85.3 cm	(8.8)	242/284	0.677	(0.023)	82.0 cm	46.5	81.9 cm	80.6	46.1	1.49	1.50	0.44	0.42
	All ages	86.2 cm	(8.9)	3,936/5,931	0.685	(0.005)	82.9 cm	45.4	83.7 cm	77.1	49.8	1.47	1.53	0.44	0.46
	Over 40 years	86.2 cm	(8.7)	3,570/4,937	0.679	(0.006)	82.8 cm	44.1	83.7 cm	77.0	49.0	1.43	1.51	0.45	0.47
BMI	Under 40 years	24.3 kg/m ²	(3.5)	366/994	0.729	(0.015)	23.3 kg/m ²	49.8	25.3 kg/m ²	58.7	78.0	1.60	2.67	0.40	0.53
	40s	24.4 kg/m ²	(3.3)	1,041/1,727	0.691	(0.010)	22.9 kg/m ²	44.8	24.6 kg/m ²	61.2	69.0	1.45	1.97	0.45	0.56
	50s	23.9 kg/m ²	(2.8)	1,429/1,897	0.675	(0.009)	22.6 kg/m ²	43.3	23.8 kg/m ²	66.1	60.3	1.41	1.66	0.46	0.56
	60s	23.6 kg/m ²	(2.6)	858/1,029	0.651	(0.013)	22.4 kg/m ²	41.4	22.8 kg/m ²	75.3	47.6	1.37	1.44	0.48	0.52
	70s	23.5 kg/m ²	(2.6)	242/284	0.661	(0.024)	22.3 kg/m ²	38.7	23.9 kg/m ²	60.7	67.6	1.30	1.88	0.52	0.58
	all ages	24.0 kg/m ²	(3.0)	3,936/5,931	0.673	(0.005)	22.7 kg/m ²	43.1	24.2 kg/m ²	59.5	66.0	1.41	1.75	0.46	0.61
	over 40 years	24.0 kg/m ²	(2.9)	3,570/4,937	0.669	(0.006)	22.6 kg/m ²	42.1	23.8 kg/m ²	65.5	59.5	1.38	1.62	0.48	0.58
Women															
VFA	under 40 years	45.6 cm ²	(33.1)	10/123	0.759	(0.015)	36.5 cm ²	51.2	60.2 cm ²	70.0	80.5	1.64	3.59	0.39	0.37
	40s	61.6 cm ²	(41.6)	40/251	0.823	(0.032)	66.4 cm ²	67.7	63.3 cm ²	85.0	66.1	2.48	2.51	0.30	0.23

Table 1 Continued on next page

Table 1 Continued

	Anthropometric indexes		Presence/absence for the metabolic risk factors			Corresponding to 80% sensitivity	Specificity corresponding to 80% sensitivity (%)	Corresponding to maximal sensitivity plus specificity	Sensitivity (%)	Specificity (%)	L _{pos}		L _{neg}	
	Mean	(s.d.)	n	Area under the curve	s.e.						Corresponding to 80% sensitivity	Corresponding to maximal sensitivity plus specificity	Corresponding to 80% sensitivity	Corresponding to maximal sensitivity plus specificity
Age														
50s	79.5cm ²	(41.6)	146/449	0.746	(0.023)	68.3cm ²	53.2	67.8cm ²	82.9	53.0	1.71	1.76	0.37	0.32
60s	93.7cm ²	(46.7)	205/381	0.694	(0.023)	75.7cm ²	43.0	97.7cm ²	65.9	65.7	1.40	1.92	0.46	0.52
70s	98.4cm ²	(48.0)	31/58	0.672	(0.061)	77.3cm ²	43.1	75.7cm ²	87.1	43.1	1.42	1.53	0.45	0.30
all ages	79.7cm ²	(45.8)	432/1,262	0.754	(0.014)	69.0cm ²	54.0	67.8cm ²	82.9	53.5	1.74	1.78	0.37	0.32
over 40 years	82.6cm ²	(45.6)	422/1,139	0.743	(0.014)	69.2cm ²	50.9	97.6cm ²	60.4	74.5	2.37	1.63	0.53	0.39
WC														
under 40 years	78.0 cm	(9.0)	10/123	0.818	(0.058)	78.7 cm	64.2	75.3 cm	100.0	50.4	2.24	2.02	0.31	0.00
40s	81.1 cm	(10.0)	40/251	0.759	(0.035)	80.7 cm	55.0	79.5 cm	92.5	49.8	1.78	1.84	0.36	0.15
50s	83.4 cm	(9.3)	146/449	0.688	(0.025)	80.5 cm	45.9	84.7 cm	63.7	65.5	1.47	1.85	0.45	0.55
60s	84.6 cm	(9.6)	205/381	0.658	(0.024)	79.8 cm	34.6	88.9 cm	46.8	79.5	1.22	2.29	0.58	0.67
70s	84.6 cm	(8.7)	31/58	0.679	(0.060)	81.8 cm	46.6	89.4 cm	51.6	82.8	1.51	2.99	0.42	0.58
all ages	83.0 cm	(9.6)	432/1,262	0.701	(0.014)	80.2 cm	45.7	84.1 cm	66.4	63.2	1.47	1.46	0.44	0.40
over 40 years	83.5 cm	(9.6)	422/1,139	0.689	(0.015)	80.2 cm	43.3	84.1 cm	66.6	61.4	1.41	1.72	0.46	0.54
BMI														
under 40 years	21.7kg/m ²	(3.5)	10/123	0.869	(0.056)	22.1kg/m ²	69.1	23.0kg/m ²	80.0	80.5	2.59	4.10	0.29	0.25
40s	22.7kg/m ²	(3.6)	40/251	0.774	(0.037)	22.2kg/m ²	54.6	23.9kg/m ²	70.0	74.9	1.76	2.79	0.37	0.40
50s	23.0kg/m ²	(3.4)	146/449	0.689	(0.025)	21.6kg/m ²	46.1	23.6kg/m ²	57.5	70.8	1.49	1.97	0.43	0.60
60s	23.2kg/m ²	(3.2)	205/381	0.664	(0.024)	21.7kg/m ²	40.2	23.8kg/m ²	54.6	71.1	1.34	1.89	0.50	0.64
70s	22.8kg/m ²	(3.2)	31/58	0.715	(0.056)	21.6kg/m ²	48.3	22.9kg/m ²	71.0	65.5	1.56	2.06	0.40	0.44
all ages	22.9kg/m ²	(3.4)	432/1,262	0.704	(0.014)	21.7kg/m ²	46.9	23.5kg/m ²	58.6	71.7	1.51	2.07	0.42	0.58
over 40 years	23.0kg/m ²	(3.4)	422/1,139	0.692	(0.015)	21.7kg/m ²	45.1	23.8kg/m ²	56.2	72.3	1.46	2.02	0.44	0.61

Multiple risk factors: having two or more risk factors of metabolic syndrome defined by NCEP-ATPIII (2005).
VFA, visceral fat area; WC, waist circumference.

Japan) according to a protocol described elsewhere (11). Briefly, single slice imaging at the umbilical level was performed using a CT machine (Redix turbo; Hitachi Medico, Tokyo, Japan) while the subject was in a supine position. The imaging conditions were 120kV, 50 mA, and a 5-mm slice thickness. Height, weight, and body fat were measured using an automated scale (BF-220; Tanita, Tokyo, Japan) with the patient wearing a light gown. The BMI was defined as the weight (kg) divided by the square of the height (m). The blood was collected from each subject after more than 12 h of fasting. The plasma glucose was measured using the glucose oxidase enzyme-electrode method (A&T, Tokyo, Japan) Triglyceride and high-density lipoprotein cholesterol levels were measured using the enzymatic colorimetric method (Cholestest TG; Sekisui Medical, Tokyo, Japan), the nonsettling enzymatic method (Cholestest NHDL; Sekisui Medical, Tokyo, Japan), respectively. Blood pressure was measured using automated sphygmomanometer (Kentaro ADVANCE BP-203RV III A/B; Colin, Tokyo, Japan). Informed consent was obtained from each examinee regarding the use of his or her data for research purposes. This study was approved by the ethics review committee of the National Center for Global Health and Medicine.

In this study, subjects with two or more of the four risk factors (high blood pressure, high triglyceride, low HDL-cholesterol, and hyperglycemia) defined according to the criteria of the National Cholesterol Education Program's Adult Treatment Panel III guidelines in 2005 (6) except for WC were defined as having the clustering of metabolic risk factors. Subjects currently receiving treatment for hyperlipidemia, hypertension, or diabetes were deemed as having the respective risk factors, regardless of the biochemical values.

Receiver operator characteristic (ROC) analysis was used to develop a cutoff of each anthropometric value associated with the presence of two or more risk factors of MS, with the exception of WC. ROC analysis is a formal method that plots sensitivity against 1-specificity for assessing the trade-offs between sensitivity and specificity at various test cutoff points or thresholds, providing a measure of diagnostic accuracy called area under the curve (AUC). We drew the ROC curves for each anthropometric value, and calculated the corresponding AUC. To test for the equality of the AUCs, an algorithm suggested by DeLong, DeLong, and Clarke-Pearson was applied for each anthropometric value (12). Pairwise comparisons of VFA with WC and BMI were also performed, and the *P* values for multiple tests (two comparisons) were adjusted using the Bonferroni-Holm method. The AUC and the s.e. were calculated for each of the 10-year age groups. The decreasing trend in the AUCs according to age was statistically tested using a weighted regression analysis of AUC on age groups, where $1/s.e.^2$ was used as the weight and the age group was coded as the median age of the group. Sensitivity was plotted against 1-specificity for each segment of anthropometric value. Likelihood ratios were calculated as for positive results ($(L_{pos}) = \text{sensitivity}/(1-\text{specificity})$), and negative results ($(L_{neg}) = (1-\text{sensitivity})/\text{specificity}$) for each segment of anthropometric value. All analyses were performed using SPSS for Windows version 15.0 (SPSS, Chicago, IL) and Stata 10 (StataLP, College Station, TX).

RESULTS

The mean age was 51.9 ± 10.4 years in men and 55.8 ± 9.8 years in women. The mean VFA was $120.7 \pm 54.2 \text{ cm}^2$ in men and $79.7 \pm 45.8 \text{ cm}^2$ in women. The mean WC was $86.2 \pm 8.9 \text{ cm}$ in men and $83.0 \pm 9.6 \text{ cm}$ in women. The mean BMI was $24.0 \pm 3.0 \text{ kg/m}^2$ in men and $22.9 \pm 3.4 \text{ kg/m}^2$ in women. The mean body fat percentage was $22.9 \pm 5.0\%$ in men and $29.1 \pm 6.1\%$ in women. The prevalence of the multiple risk factors of MS was 39.9% in men and 25.5% in women.

We plotted the ROC curve to determine the cutoff values of VFA, BMI, and WC in relation to the detection of multiple risk factors. Table 1 shows the AUC values for VFA, BMI, and WC. The AUC values were greater in women than in men

for all ages. The anthropometric measurement with the largest AUC value was the VFA for both men and women ($P < 0.001$; VFA vs. each anthropometric values). Given that a WC is used for the first screening of subjects as a prerequisite for the detection of multiple risk factors of MS, setting a cutoff level to obtain a high sensitivity of at least 80% may be justified, even if the specificity is reduced to some extent. The VFA, BMI, and WC cutoff values yielding an 80% sensitivity for the detection of multiple risk factors of MS for all ages were 102.4 cm^2 , 22.7 kg/m^2 , and 82.9 cm in men and 69.0 cm^2 , 21.7 kg/m^2 , and 80.2 cm in women, respectively. At an 80% sensitivity for all age group, men who had multiple risk factors were 1.61 times more likely to be above the criteria of VFA (102.4 cm^2), and were only 0.40 times more likely to be below it as compared to those who do not have. Both L_{pos} and L_{neg} had a monotonically increasing trend along with VFA. Therefore, we could not identify a cut off that simultaneously satisfied maximized L_{pos} and minimized L_{neg} ratios.

The VFA cutoff values yielding an 80% sensitivity for the detection of clusters of multiple risk factors were typically smaller in subjects under the age of 40 years (<40 years vs. ≥ 40 years; 86.4 cm^2 vs. 103.9 cm^2 for men and 36.5 cm^2 vs. 69.2 cm^2 for women, respectively). The AUC of the body fat percentage was the smallest of all of anthropometric values (data not shown).

The mean VFA was larger in the higher age groups. The AUC of the ROC curve of VFA for the detection of multiple risk factors of MS tended to decrease according to age ($P = 0.056$ and $P = 0.020$ for trends in men and women, respectively). The cutoff values for maximal sensitivity and specificity differed according to age groups, yielding inconsistent sensitivity and specificities among the groups.

DISCUSSION

In the present study, we proposed VFA cutoff points for the detection of multiple risk factors of MS of 103.9 cm^2 in men and 69.2 cm^2 in women over the age of 40 years, yielding a sensitivity of at least 80% for the prediction of clusters of multiple risk factors in a Japanese population. Among subjects under the age of 40 years, a smaller cutoff point should be used, i.e., 86.4 cm^2 in men. However, among the subjects under the age of 40 years for women, the number of subjects having multiple risk factors of MS was small; thus it may be difficult to detect the cutoff values of VFA.

A few studies have reported appropriate VFA cutoff points for the detection of multiple risk factors of MS (13,14). However, as age-specific cutoff values were not calculated, the present study is the first to examine whether age-specific cutoff values are needed.

Two methods have been reported for determining the cutoff point. One is calculating L_{pos} and L_{neg} and using the cutoff point that yields the highest value of L_{pos} and the lowest value of L_{neg} concurrently. If there is no cutoff point that corresponds to both the highest and lowest values, the cutoff point for highest value of L_{pos} and that for the lowest value of L_{neg} are shown, respectively. According to this method, a previous study indicated that intra-abdominal adipose tissue above 131 cm^2 was related to elevated multiple risk factors of cardiovascular

disease, and intra-abdominal adipose tissue below 71 cm² was associated with reduced multiple risk factors of cardiovascular disease in men (15). Similarly, another study showed the upper and lower cutoff points of intra-abdominal adipose tissue as 110 cm² and 40 cm² in female subjects who have multiple risk factors of cardiovascular disease (16). Another method to determine the cutoff point is calculating the Youden index (sensitivity + specificity - 1) and using the maximal value of it (17,18). Incorporating this method, Oka *et al.* showed the optimal cutoff points of VFA for discriminating the subjects with multiple risk factors of MS as 132.6 cm² and 91.5 cm² for men and women, respectively (14). A separate study showed the cutoff points of it as 103.0 cm² and 69.0 cm² for men and women, respectively (19). Though there have been several studies before our own, our results show that both L_{pos} and L_{neg} tend to rise with an increase in VFA. Therefore, a cutoff point that simultaneously meets a requirement of both maximized L_{pos} and minimized L_{neg} ratios could not be determined in our study. When attempting to classify individuals based on anthropometric levels, it is always the intent to do so "optimally". However, the event of interest may intrinsically involve constraints that must be considered for ethical or fiscal reasons. These constraints commonly account for the prevalence of the event and the costs of misclassification, both monetary and physiological (20). The maximal value of the Youden index, used in previous studies to calculate the cutoff values, does not take these points into consideration. Our purpose was to screen individuals with multiple risk factors for MS; thus, the cost of false-positive results may not be a serious problem because the interventions, even among "false-positive" individuals, to improve lifestyles would have some benefits and would have a relatively low cost in the Japanese system. In Japan, the prevalence of MS is increasing because of the increasing prevalence of obesity; thus, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan is making a strong effort to prevent MS. Therefore, for the first screening of subjects as a prerequisite for the diagnosis of MS, we set a cutoff level so as to obtain a relatively high sensitivity (80%) to increase the probability of identifying people with this disease.

The VFA cutoff point for the detection of multiple risk factors of MS yielding a sensitivity of 80% increased with age. This observation can likely be explained by the increase in the mean VFA values in older age groups given the relationship between VFA and having multiple risk factors does not differ among age groups. The cutoff values were typically smaller among subjects under the age of 40 years. If the same cutoff value (e.g., cutoff value corresponding to 80% sensitivity for all ages) is used regardless of age, the sensitivity under the age of 40 years is relatively smaller (70.0% for men and 60.0% for women, respectively) than that in other age groups. Thus, age-specific cutoff values are especially needed for this generation.

Furthermore, the AUC of the ROC curve of VFA for the detection of multiple risk factors of MS tended to decrease with age in both sexes. The effect of VFA on the detection of multiple risk factors of MS is thought to be stronger among young individuals and weaker among elderly individuals. In the elderly,

MS may also be caused by risk factors other than VFA (such as age-related hyperglycemia and high blood pressure).

The AUC for women was larger than that for men in all the age groups. This finding can likely be explained by the fact that men tend to have more other risk factors of MS which are not used for the diagnostic criteria of MS (such as a smoking habit, and alcohol drinking habit, stress, hard work, etc (21)); thus, the contribution of VFA to the multiple risk factors of MS may be relatively smaller in men than it is in women.

The present study described the VFA cutoff values yielding a sensitivity of 80% according to age group. Further studies are needed to elucidate the most suitable and easy method of measuring VFA and the most appropriate cutoff point for use in clinical settings.

ACKNOWLEDGMENTS

This study was supported by a grant from the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.

DISCLOSURE

The authors declared no conflict of interest.

© 2011 The Obesity Society

REFERENCES

- Lakka HM, Laaksonen DE, Lakka TA *et al.* The metabolic syndrome and total and cardiovascular disease mortality in middle-aged men. *JAMA* 2002;288:2709-2716.
- Isomaa B, Almgren P, Tuomi T *et al.* Cardiovascular morbidity and mortality associated with the metabolic syndrome. *Diabetes Care* 2001;24:683-689.
- Grundy SM, Brewer HB Jr, Cleeman JI, Smith SC Jr, Lenfant C; American Heart Association; National Heart, Lung, and Blood Institute. Definition of metabolic syndrome: Report of the National Heart, Lung, and Blood Institute/American Heart Association conference on scientific issues related to definition. *Circulation* 2004;109:433-438.
- World Health Organization. Definition, Diagnosis and Classification of Diabetes and its Complications: Report of a WHO consultation. Geneva, *World Health Org.* 1999 (WHO/NCD/NCS/99.2).
- International Diabetes Federation: A new worldwide definition of the metabolic syndrome [article online], 2005. <<http://www.idf.org/node/1271?unode=1120071E-AAEC-41D2-9FA0-BAB6E25BA072>>. Accessed 3 July 2009.
- Grundy SM, Cleeman JI, Daniels SR *et al.*; American Heart Association; National Heart, Lung, and Blood Institute. Diagnosis and management of the metabolic syndrome: an American Heart Association/National Heart, Lung, and Blood Institute Scientific Statement. *Circulation* 2005;112:2735-2752.
- Matsuzawa Y. Metabolic syndrome—definition and diagnostic criteria in Japan. *J Atheroscler Thromb* 2005;12:301.
- Wajchenberg BL. Subcutaneous and visceral adipose tissue: their relation to the metabolic syndrome. *Endocr Rev* 2000;21:697-738.
- Matsushita Y, Nakagawa T, Yamamoto S *et al.* Associations of visceral and subcutaneous fat areas with the prevalence of metabolic risk factor clustering in 6,292 Japanese individuals: the Hitachi Health Study. *Diabetes Care* 2010;33:2117-2119.
- Matsushita Y, Takahashi Y, Mizoue T *et al.*; JPHC Study Group. Overweight and obesity trends among Japanese adults: a 10-year follow-up of the JPHC Study. *Int J Obes (Lond)* 2008;32:1861-1867.
- Yamamoto S, Nakagawa T, Matsushita Y *et al.* Visceral fat area and markers of insulin resistance in relation to colorectal neoplasia. *Diabetes Care* 2010;33:184-189.
- Ross R, Rissanen J, Hudson R. Sensitivity associated with the identification of visceral adipose tissue levels using waist circumference in men and women: effects of weight loss. *Int J Obes Relat Metab Disord* 1996;20:533-538.
- Miyawaki T, Hirata M, Moriyama K, *et al.* Metabolic syndrome in Japanese diagnosed with visceral fat measurement by computed tomography. *Proc Jpn Acad* 2005; 81: 471-479.
- Oka R, Kobayashi J, Yagi K *et al.* Reassessment of the cutoff values of waist circumference and visceral fat area for identifying Japanese subjects at risk for the metabolic syndrome. *Diabetes Res Clin Pract* 2008;79: 474-481.

15. Hunter GR, Snyder SW, Kekes-Szabo T, Nicholson C, Berland L. Intra-abdominal adipose tissue values associated with risk of possessing elevated blood lipids and blood pressure. *Obes Res* 1994;2:563–568.
16. Williams MJ, Hunter GR, Kekes-Szabo T *et al*. Intra-abdominal adipose tissue cut-points related to elevated cardiovascular risk in women. *Int J Obes Relat Metab Disord* 1996;20:613–617.
17. Youden WJ. Index for rating diagnostic tests. *Cancer* 1950;3:32–35.
18. Perkins NJ, Schisterman EF. The inconsistency of “optimal” cutpoints obtained using two criteria based on the receiver operating characteristic curve. *Am J Epidemiol* 2006;163:670–675.
19. Kashihara H, Lee JS, Kawakubo K, Tamura M, Akabayashi A. Criteria of waist circumference according to computed tomography-measured visceral fat area and the clustering of cardiovascular risk factors. *Circ J* 2009;73:1881–1886.
20. Perkins NJ, Schisterman EF. The inconsistency of “optimal” cutpoints obtained using two criteria based on the receiver operating characteristic curve. *Am J Epidemiol* 2006;163:670–675.
21. Division of Health Promotion and Nutrition, Ministry of Health, Labour and Welfare. *Annual report of the National Nutrition Survey in 2005*. Tokyo: Daiichi Publishing, 2007. (in Japanese).

ORIGINAL ARTICLE

Short sleep duration in association with CT-scanned abdominal fat areas: the Hitachi Health Study

S Yi^{1,2}, T Nakagawa³, S Yamamoto³, T Mizoue¹, Y Takahashi⁴, M Noda⁴ and Y Matsushita⁵

OBJECTIVE: To examine the relationship between short sleep duration and body mass index (BMI), waist circumference (WC), visceral fat area (VFA) and subcutaneous fat area (SFA) among a working population in Japan.

DESIGN: Health-center-based, cross-sectional study.

SUBJECTS: The study subjects included 5400 men and 642 women aged 30 to 75 years who underwent an abdominal computed tomography (CT) scanning examination in a comprehensive health checkup.

MEASUREMENTS: Height and weight were measured, and BMI was calculated. WC, VFA and SFA were measured using a CT scanner. Sleep duration was self-reported. Analysis of covariance was used to estimate adjusted means of BMI, WC, VFA and SFA across categories of sleep duration with adjustments for potential confounders. Trend of the association was assessed using multiple linear regression analysis.

RESULTS: In men, the mean values of BMI, WC and SFA decreased with increasing sleep duration after adjustment for age, physical activity, smoking and drinking (P -value for trend <0.001). Additional adjustment for physical illnesses did not attenuate the explanatory power of the models (P -value for trend <0.001). In addition, the association between sleep duration and SFA did not change after controlling for VFA (P -value for trend <0.001). The mean values of SFA for subjects sleeping ' <5 h', '5 to <6 h', '6 to <7 h' and ' ≥ 7 h' per day were 145.8 ± 67.4 cm², 138.7 ± 61.5 cm², 134.7 ± 60.4 cm² and 132.5 ± 49.2 cm², respectively. Sleep duration was not appreciably associated with VFA. In women, no significant association was detected in any models.

CONCLUSION: Shorter sleep duration is associated with higher BMI, WC and SFA in men. Further research is needed to explicate the biological mechanisms behind these relationships and to see whether interventions addressing inadequate sleep could treat or prevent obesity by taking gender differences into consideration.

International Journal of Obesity (2013) 37, 129–134; doi:10.1038/ijo.2012.17; published online 21 February 2012

Keywords: sleep duration; general obesity; central obesity; abdominal fat area; Japan

INTRODUCTION

In the past few decades, there has been a significant increase in the prevalence of obesity worldwide. The World Health Organization describes obesity as one of the most visible, yet neglected, public health problems, which threatens to overwhelm both more and less developed countries.¹ The observation that obesity prevalence has increased over the past decades at the same time as sleep duration has decreased has drawn attention to the possibility that sleep deprivation may have contributed to the obesity epidemic.² The interest may have been further promoted by the recognition that obesity epidemic cannot easily be attributed to the so-called obesogenic environment, which is assumed to lead to overeating and sedentary lifestyle.³

In Japan, the prevalence of obesity in men aged 30 to 60 years increased from ~20% in 1986 to >30% in 2006.⁴ Meanwhile, the average sleep duration among Japanese has decreased steadily over the past 40 years. The average daily sleep duration in people aged 10 years and older has declined from 493 min (8.2 h) in 1960 to 447 min (7.5 h) in 1995, and further drop was observed in 2005 to 442 min (7.3 h).⁵ The small decrease in sleep duration from 1995 to 2005 may suggest that the average sleep in

Japanese has reached the minimum requirement for human survival.⁶

Evidence has grown over the past decade supporting the roles of habitual sleep duration as a novel risk factor for obesity in both children and adults⁷ and its subsequent health outcomes including all-cause mortality,⁸ type 2 diabetes,⁹ hypertension¹⁰ and other cardiovascular outcomes.¹¹ The relationship is typically a U-shaped curve where the lowest risk is found at ~7 to 8 h of sleep per day with the odds rising for shorter and longer sleepers.¹² This pattern suggests that different mechanisms may operate at either end of the distribution of sleep duration.¹³ As a result of these findings, both sleep restriction¹⁴ and sleep extension¹⁵ have been suggested for potential health interventions.

Although consistent findings have been observed in children, controversy remains in the relationship between sleep duration and obesity and/or weight gain in adults.^{2,16} Such relationships have not been found in several epidemiological studies.^{17,18} Furthermore, gender differences have also been reported, with the significant association found in men but not in women¹⁹ or vice versa.²⁰ The interpretation and conclusion of the findings is

¹Department of Epidemiology and Prevention, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan; ²Asia Health Policy Program, Walter H. Shorenstein Asia-Pacific Research Center, Freeman Spogli Institute for International Studies, Stanford University, Stanford, CA, USA; ³Hitachi, Ltd, Hitachi Health Care Center, Ibaraki-ken, Japan; ⁴Department of Diabetes and Metabolic Medicine, National Center for Global Health and Medicine, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan and ⁵Department of Clinical Research Coordination, National Center for Global Health and Medicine, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan. Correspondence: Dr Y Matsushita, Department of Clinical Research Coordination, National Center for Global Health and Medicine, 1-21-1 Toyama, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8655, Japan.

E-mail: ymatsushita@hosp.ncgm.go.jp

Received 6 September 2011; revised 28 December 2011; accepted 3 January 2012; published online 21 February 2012

hampered by fundamental conceptual and methodological issues.^{2,16} Few studies, for example, have considered physical and mental health conditions as potential confounders. As shown in a recent German study, the relationship between sleep duration and body mass index (BMI) did not persist after controlling for self-rated physical health and emotional status.²¹

Moreover, the inconsistency might have been caused in part by the different definitions and measurements of obesity. BMI, an indicator of overall obesity, has been frequently used in previous studies to define weight gain and obesity. The importance of central obesity and abdominal fat mass has been known to have a stronger relation to the prevalence of each component of metabolic syndrome (hyperglycemia, diabetes and hypertension) than BMI.²² Our previous study has indicated a superior performance of visceral fat area (VFA) to predict the clustering of metabolic risk factors compared with BMI, waist circumference (WC) and subcutaneous fat area (SFA) in a Japanese population.²³ It remains unclear, however, whether sleep duration is related to abdominal fat areas after taking potential confounders into account. The objective of this study was therefore to examine the relationship between sleep duration and BMI, WC, VFA and SFA in a large sample of Japanese working population enrolled in the Hitachi Health Study.

MATERIALS AND METHODS

Study procedure and subjects

This cross-sectional study was conducted in 2009 and 2010 during a comprehensive annual health examination conducted at the Hitachi Health Care Center, Ibaraki prefecture, Japan. The procedure of the study has been described elsewhere.^{24,25} In brief, participants were asked to fill in a computer-based survey questionnaire on the day of the regular health checkup. In total, 17 606 male employees and their spouses underwent the checkup after having fasted overnight. Of these participants, 6537 subjects received an abdominal computed tomography (CT) scanning examination and were the targets for this study. We excluded subjects with a history of diabetes mellitus ($n = 229$), stroke ($n = 28$), myocardial infarction ($n = 39$), cancer ($n = 38$), psychiatric illnesses ($n = 98$) and insomnia ($n = 59$). We further excluded four subjects who did not provide information regarding sleep duration. Some subjects were overlapped and fell into more than one exclusion criteria. We finally included 6271 subjects in the analyses. We obtained written informed consent from each participant after the nature and possible consequences of the study had been fully explained. The study protocol was reviewed and approved by the Ethics Committee of the National Center for Global Health and Medicine, Tokyo.

Variables and measurements

Anthropometric and blood measurements. WC, VFA and SFA were measured by using a CT scanner, the details of which have been described elsewhere.²⁵ In brief, single slice imaging was performed at the umbilical level in a supine position (Redix Turbo; Hitachi Medico, Chiyoda-ku, Tokyo). The imaging conditions were 120 kV, 50 mA, with a slice thickness of 5 mm. WC, SFA and VFA were calculated by using the PC software application fatPointer (Hitachi Medico). Body height and weight were measured by using an automated scale (BF-220; TANITA; Itabashi-ku, Tokyo) with the subjects wearing a light gown. BMI was calculated as body weight in kg divided by the square of body height in meter.

Sleep duration. Sleep duration was self-reported. The average sleep duration on weekdays was defined by the response to the question (as translated into English): 'On average, how many hours do you sleep per day?' The response categories included: '<5 h', '5 to <6 h', '6 to <7 h' and '≥7 h'.

Confounding variables. Health-related lifestyles were ascertained by using a questionnaire. Participants entered their responses to the questionnaire directly into a computer using a custom-designed data

entry system. Regarding the health conditions of participants, data were obtained from the routine health examination. Physical illness was defined as having been diagnosed with and/or being currently under treatment of at least one of the following diseases: hypertension, diabetes mellitus, hyperlipidemia, hyperuricemia, anemia, gastric ulcer, duodenal ulcer, colon polyp, chronic hepatitis, fatty liver, gallstone, disk hernia, rheumatoid arthritis, epilepsy, thyroid-gland-related diseases, angina, cardiac dysrhythmia, tuberculosis, bronchial asthma, kidney diseases and other diseases. Similarly, psychiatric illness was defined as having been diagnosed with and/or being currently under treatment of any psychiatric diseases. Regarding cigarette smoking, the questionnaire inquired whether the participants were nonsmokers, ex-smokers or current smokers. Nonsmokers and ex-smokers were later combined for statistical analyses. For alcohol consumption, participants were asked whether they were nondrinkers or current drinkers. For current drinkers, the frequency of drinking and the amount of alcohol consumed per session was assessed in terms of *go* (one *go* contains ~23 g of ethanol). A yes/no question was used to assess regular physical activity.

Statistical analyses

To explore gender differences, all data analyses were conducted separately in men and women. Characteristics of participants are presented as numbers (percentages) for categorical variables and mean with s.d. for continuous variables. Statistical differences in characteristics and anthropometric measurements and according to sleep duration categories in men and women were assessed using χ^2 test or Fisher's exact test for categorical variables and *t*-test or one-way analysis of variance for continuous variables.

Analysis of covariance was used to estimate adjusted means of BMI, WC, VFA and SFA across categories of sleep duration (<5 h, 5 to <6 h, 6 to <7 h and ≥7 h). In model 1, we adjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current smoking status (nonsmokers or smoker) and current alcohol drinking (nondrinkers or drinker). Because physical illness has been found to be a potential confounder in the association between sleep duration and obesity,²¹ we included it in model 2 in addition to the covariates in model 1. An additional model (model 3) was constructed for VFA and SFA. In addition to the covariates in model 2, SFA was included in the model for VFA, and VFA was included in the model for SFA. Trend of the association was assessed by using multiple linear regression models with ordinal numbers of 0 to 3 assigned to the categories of sleep duration with adjustments for the same covariates included in each model of analysis of covariance. In addition, statistical tests for a gender interaction were performed by including pair-wise interaction terms (that is, BMI × gender, WC × gender, VFA × gender and SFA × gender) in the multiple regression models. Two-sided *P*-values of <0.05 were regarded as statistically significant. We used IBM SPSS Statistics version 19.0 (IBM Corporation, New York, NY, USA) for all the statistical analyses.

RESULTS

The study subjects included 5400 men and 642 women with an age range between 30 to 75 years (mean = 53.3 years ± 10.0 years in men and mean = 58.2 years ± 9.4 years in women). Regarding the average sleep duration, 5.4% of the total study population slept <5 h, 42.6% slept 5 to <6 h, 39.4% slept 6 to <7 h and 12.6% slept ≥7 h per day. The proportion of subjects sleeping >6 h per day was significantly higher in men than in women (53.0% vs 47.5%). Men were also significantly more likely to be current cigarette smokers (33.9% vs 3.3%) and current alcohol drinkers (76.4% vs 21.2%). The mean value of BMI, WC and VFA was significantly higher in men (mean = 24.2 ± 3.1 kg m⁻², mean = 86.7 ± 8.3 cm and mean = 124.2 ± 53.8 cm², respectively) than in women (mean = 23.1 ± 3.3 kg m⁻²; mean = 83.6 ± 9.5 cm; and mean = 82.8 ± 45.1 cm², respectively). However, the mean value of SFA was significantly lower in men (mean = 136.5 ± 57.8 cm²) than in women (mean = 185.9 ± 75.8 cm²). Men were

significantly less likely to be living with at least one physical illness compared with women (37.1% vs 47.8%).

Tables 1 and 2 show characteristics of subjects according to sleep duration categories in men and women, respectively. In men, sleep duration increased as age increased. Men with shorter sleep duration were more likely to be current cigarette smokers and to be living with at least one physical illness. However, men with shorter sleep duration were less likely to be current alcohol drinkers, and they were less likely to involve with regular physical activity compared with those with longer sleep duration. In men, mean values of BMI, WC and SFA significantly decreased as sleep duration increased. In women, no significant association was found between characteristics of subjects and sleeping duration.

Table 3 shows the adjusted mean values of anthropometric indexes of subjects according to sleep duration categories in men. After adjustment for age, regular physical activity, cigarette smoking and alcohol drinking in model 1, mean values of BMI, WC and SFA decreased significantly with increasing sleep duration (*P*-values for trend <0.001). Adjustment for physical illnesses (model 2) did not significantly change the explanatory power of the models. For subjects sleeping '<5 h', '5 to <6 h', '6 to <7 h' and '≥7 h' per day, mean values of BMI were 24.8 ± 3.5 kg m⁻², 24.3 ± 3.2 kg m⁻², 24.0 ± 2.7 kg m⁻² and 23.8 ± 2.6 kg m⁻², respectively (*P*-values for trend <0.001), and mean values of WC were 87.9 ± 9.3 cm, 86.9 ± 8.7 cm, 86.4 ± 7.8 cm and 85.7 ± 7.5 cm, respectively (*P*-values for trend <0.001). The significant inverse

association between sleep duration and SFA was also not attenuated after additional adjustment for physical illnesses (model 2) and VFA (model 3). In fully adjusted model, the mean values of SFA for subjects sleeping '<5 h', '5 to <6 h', '6 to <7 h' and '≥7 h' per day were 145.8 ± 67.4 cm², 138.7 ± 61.5 cm², 134.7 ± 60.4 cm² and 132.5 ± 49.2 cm², respectively (*P*-values for trend <0.001). Sleep duration was not appreciably associated with VFA in men. As shown in Table 4, sleep duration was not significantly associated with BMI, WC, VFA or SFA in any models in women. Gender interaction tests were all statistically significant for all the outcomes of interest (all *P*-values <0.001).

DISCUSSION

In this cross-sectional study, we investigated the relationship of sleep duration with general obesity and abdominal fat areas. To the best of our knowledge, this is the first study of its kind in which CT scanner was used to measure WC, VFA and SFA. We found that short sleep duration was strongly associated with higher BMI, WC and SFA in men. The association was independent of the effects of potential confounding factors such as physical and psychiatric illnesses. However, sleep duration was not appreciably associated with VFA. Apparent gender differences were observed as significant relationship was not detected between sleep duration and any obesity-related measures in women.

Table 1. Characteristics of subjects according to sleep duration categories in men

Variables	Average sleep duration (hours per day)					P-value
	Total	<5	5 to <6	6 to <7	≥7	
Number of subjects	5400	272	2285	2152	690	
Age (years, mean ± s.d.)	53.3 ± 10.0	49.1 ± 9.4	50.5 ± 9.2	54.5 ± 9.8	60.3 ± 9.6	<0.001
Current smokers (n, %)	1829 (33.9)	92 (33.8)	832 (36.4)	721 (33.5)	184 (26.7)	<0.001
Current alcohol drinkers (n, %)	4127 (76.4)	191 (70.2)	1735 (75.9)	1656 (77.0)	545 (79.0)	0.03
Regular physical activity (n, %)	2419 (44.8)	82 (30.1)	942 (41.2)	1028 (47.8)	379 (54.9)	<0.001
Physical illnesses ^a (n, %)	2001 (37.1)	88 (32.4)	743 (32.5)	826 (38.4)	344 (49.9)	<0.001
Body mass index (years, mean ± s.d.)	24.1 ± 3.0	24.9 ± 3.4	24.3 ± 3.2	24.0 ± 2.7	23.7 ± 2.5	<0.001
Waist circumference (cm, mean ± s.d.)	86.6 ± 8.3	88.1 ± 9.2	87.0 ± 8.7	86.3 ± 7.8	85.6 ± 7.4	<0.001
Visceral fat area (cm ² , mean ± s.d.)	124.1 ± 53.7	124.9 ± 54.6	122.2 ± 54.3	124.9 ± 52.6	127.2 ± 54.0	0.16
Subcutaneous fat area (cm ² , mean ± s.d.)	136.7 ± 57.2	152.5 ± 69.4	141.5 ± 61.8	133.4 ± 51.6	124.6 ± 48.5	<0.001

^aPhysical illness was defined as having and/or being currently under treatment for at least one of the following diseases: hypertension; diabetes mellitus, hyperlipidemia, hyperuricemia, anemia, gastric ulcer, duodenal ulcer, colon polyp, chronic hepatitis, fatty liver, gallstone, disk hernia, rheumatoid arthritis, epilepsy, thyroid-gland-related diseases, angina, cardiac dysrhythmia, tuberculosis, bronchial asthma, kidney diseases and other diseases.

Table 2. Characteristics of subjects according to sleep duration categories in women

Variables	Average sleep duration (hours per day)					P-value
	Total	<5	5 to <6	6 to <7	≥7	
Number of subjects	642	57	286	230	69	
Age (years, mean ± s.d.)	58.2 ± 9.4	57.5 ± 9.6	57.2 ± 9.2	59.2 ± 9.7	59.6 ± 8.9	0.04
Current smokers (n, %)	21 (3.3)	1 (1.8)	12 (4.2)	3 (1.3)	5 (7.2)	0.06
Current alcohol drinkers (n, %)	136 (21.2)	11 (19.3)	66 (23.1)	39 (17.0)	20 (29.0)	0.13
Regular physical activity (n, %)	295 (46.0)	27 (47.4)	120 (41.9)	118 (51.3)	32 (46.3)	0.20
Physical illnesses ^a (n, %)	307 (47.8)	31 (54.4)	126 (44.1)	118 (51.3)	32 (46.4)	0.29
Body mass index (years, mean ± s.d.)	23.1 ± 3.4	23.2 ± 3.0	23.3 ± 3.6	22.9 ± 3.2	23.0 ± 3.5	0.32
Waist circumference (cm, mean ± s.d.)	83.4 ± 9.5	83.2 ± 9.1	83.5 ± 9.8	83.2 ± 9.0	83.8 ± 9.5	0.83
Visceral fat area (cm ² , mean ± s.d.)	82.2 ± 44.7	88.1 ± 46.5	80.4 ± 44.8	82.8 ± 44.6	82.4 ± 42.8	0.98
Subcutaneous fat area (cm ² , mean ± s.d.)	185.9 ± 74.6	182.7 ± 66.7	186.0 ± 75.2	185.3 ± 73.8	190.5 ± 74.6	0.71

^aPhysical illness was defined as having and/or being currently under treatment for at least one of the following diseases: hypertension, diabetes mellitus, hyperlipidemia, hyperuricemia, anemia, gastric ulcer, duodenal ulcer, colon polyp, chronic hepatitis, fatty liver, gallstone, disk hernia, rheumatoid arthritis, epilepsy, thyroid-gland-related diseases, angina, cardiac dysrhythmia, tuberculosis, bronchial asthma, kidney diseases and other diseases.

Table 3. Adjusted mean values of anthropometric indexes of subjects according to sleep duration categories in men

Variables	Average sleep duration (hour per day)				P for trend ^a
	<5	5 to <6	6 to <7	≥7	
Number	272	2285	2152	690	
Body mass index (kg m ⁻²)					
Model 1 ^b	24.8 ± 3.5	24.3 ± 3.2	24.0 ± 2.7	23.8 ± 2.6	<0.001
Model 2 ^c	24.8 ± 3.5	24.3 ± 3.2	24.0 ± 2.7	23.8 ± 2.6	<0.001
Waist circumference (cm)					
Model 1 ^b	87.9 ± 9.3	86.9 ± 8.7	86.4 ± 7.8	85.8 ± 7.5	<0.001
Model 2 ^c	87.9 ± 9.3	86.9 ± 8.7	86.4 ± 7.8	85.7 ± 7.5	<0.001
Visceral fat area (cm ²)					
Model 1 ^b	127.4 ± 54.6	124.3 ± 54.4	124.0 ± 52.6	122.0 ± 54.0	0.23
Model 2 ^c	127.3 ± 54.6	124.4 ± 54.4	124.1 ± 52.6	121.4 ± 53.9	0.16
Model 3 ^d	121.1 ± 53.9	123.1 ± 53.8	125.2 ± 52.9	124.7 ± 54.4	0.09
Subcutaneous fat area (cm ²)					
Model 1 ^b	147.9 ± 69.5	138.9 ± 61.8	134.7 ± 51.6	131.3 ± 48.6	<0.001
Model 2 ^c	147.9 ± 69.5	139.0 ± 61.9	134.7 ± 51.6	130.8 ± 48.5	<0.001
Model 3 ^e	145.8 ± 67.4	138.7 ± 61.5	134.7 ± 51.6	132.5 ± 49.2	<0.001

Values are means ± s.d. ^aP for trend values were based on linear regression analyses with ordinal numbers 0 to 3 assigned to lowest through highest categories of sleep duration. ^bAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no) and current alcohol drinking (yes or no). ^cAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no), current alcohol drinking (yes or no) and physical illnesses (yes or no). ^dAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no), current alcohol drinking (yes or no), physical illnesses (yes or no) and subcutaneous fat area (continuous). ^eAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no), current alcohol drinking (yes or no), physical illnesses (yes or no) and visceral fat area (continuous).

Table 4. Adjusted mean values of anthropometric indexes of subjects according to sleep duration categories in women

Variables	Average sleep duration (hour per day)				P for trend ^a
	<5	5 to <6	6 to <7	≥7	
Number	57	286	230	69	
Body mass index (kg m ⁻²)					
Model 1 ^b	23.2 ± 3.0	23.3 ± 3.6	22.9 ± 3.2	23.0 ± 3.5	0.24
Model 2 ^c	23.1 ± 2.9	23.3 ± 3.5	22.9 ± 3.2	23.0 ± 3.6	0.28
Waist circumference (cm)					
Model 1 ^b	83.3 ± 9.1	83.6 ± 10.0	83.1 ± 9.0	83.5 ± 9.6	0.79
Model 2 ^c	83.1 ± 8.9	83.7 ± 10.1	83.0 ± 8.9	83.6 ± 9.7	0.86
Visceral fat area (cm ²)					
Model 1 ^b	89.0 ± 46.5	82.0 ± 44.9	81.1 ± 44.7	80.8 ± 42.9	0.34
Model 2 ^c	88.3 ± 45.8	82.1 ± 45.1	81.0 ± 44.6	81.2 ± 43.2	0.38
Model 3 ^d	89.7 ± 47.3	81.7 ± 44.4	81.6 ± 45.1	79.7 ± 42.2	0.17
Subcutaneous fat area (cm ²)					
Model 1 ^b	183.3 ± 66.7	186.9 ± 75.3	184.3 ± 73.8	189.2 ± 82.1	0.88
Model 2 ^c	182.0 ± 65.2	187.2 ± 76.4	184.1 ± 73.6	189.9 ± 82.6	0.81
Model 3 ^e	174.9 ± 62.3	187.2 ± 76.5	185.4 ± 74.9	191.0 ± 84.2	0.29

Values are means ± s.d. ^aP for trend values were based on linear regression analyses with ordinal numbers 0 to 3 assigned to lowest through highest categories of sleep duration. ^bAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no) and current alcohol drinking (yes or no). ^cAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no), current alcohol drinking (yes or no) and physical illnesses (yes or no). ^dAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no), current alcohol drinking (yes or no), physical illnesses (yes or no) and subcutaneous fat area (continuous). ^eAdjusted for age (continuous), regular physical activity (yes or no), current cigarette smoking (yes or no), current alcohol drinking (yes or no), physical illnesses (yes or no) and visceral fat area (continuous).

This study extends the understanding in the literature of sleep and obesity research in which sleep deprivation has been considered as a potential predictor of obesity, frequently defined by using BMI. BMI is not a valid proxy for body fat mass, and existing BMI cutoffs are not suitable for the classification of

individuals as normal weight, overweight or obese in Asians.²⁶ Asians have proportionally more fat for a similar BMI level and are at increased cardiovascular risk at lower BMI levels as compared with Caucasians.²⁷ Findings from our study suggest that, in working Japanese men, short sleep duration is associated not only with